

平成 22 年度 理研バイオリソースセンター レビューA 委員会 諮問事項について
新規変異マウス研究開発チーム

1. 各室・チームは科学的に大きな意義のある業績及び社会的に波及効果の大きな業績を挙げているか。

総評： Whole genome exome を高速シーケンサーにより解析することにより、変異を多量に同定することが可能になり、研究者コミュニティに大きな波及効果が予測される大きな成果を得ており、評価される。

- ・ 高速シーケンサーで同定した 247 変異の成果の早期公開が望まれる。
- ・ Backcross なしに解析に直結する提案ができているのは評価できる。
- ・ Genetic modifier の同定まで視野に入るレベルに達したことは高く評価できる。

2. 各室・チームの運営にかかわる Plan-Do-Check-Action (PDCA) サイクルは機能しているか。

A. 前回の BRAC、リソース検討委員会及びセンター内自己点検・評価の指摘事項への対応状況について。

総評： BRAC、レビュー委員会及びセンター内自己点検・評価の指摘事項によく対応しており、PDCA サイクルは機能していると思われる。

- ・ 日本の ENU mutagenesis プロジェクトを実のあるものに行っている点で、充分対応できたと考えられる。
- ・ 非現実的な課題を現実的なものとした点は評価できる。

B. 今中期計画の残りの 2 年間の方針及び実施計画について

総評： 適切であると判断される。下記の事項に留意し、より一層の推進を図るべきと思われる。

- ・ 変異マウスの同定システムの有効性を示すことが重要であり、そのためにも論文発表が必要である。
- ・ 表現型と対応した変異を持つマウスの同定が大切であり、それによって、成果の評価が変わられる。残りの期間は、変異スクリーニングの発展とともに、表現型解析にも参加すべきと思われる。
- ・ ユーザーの獲得と広報が重要課題と思われる。
- ・ 希望の抱けるテーマであり着実である。さらに、社会に基礎科学の重要性をアピールされたい。

3. 各室・チームのセンター内外における連携活動及び国際連携の促進について(特筆する活動・成果があればご記入お願いいたします)。

- ・ 他部門、チームとの連携の姿勢が見られ、この点は評価できる。また河岡 ERATO 及び Agilent との

共同研究は評価される。

- 提案されていたこれまでのユーザーに対する高速シークエンサーを用いたシステム利用の呼びかけは、良い提案であると思われる。
- システムの完成は価値ある成果であり、さらにセンター外との連携を進めて利用価値を示して欲しい。

4. その他コメントがございましたらご記入お願いいたします。

- 強力なシステムなので、重点的に促進して欲しい。まず一つモデルケースの解析を行い、システムの有効性を実証することで、共同研究を大幅に促進できると思う。素晴らしいシステムであり、是非有効利用して欲しい。
- BRC のミッションに貢献できる課題である。

以上